新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里

シジュウカラ第81号

§ 平成 27 年度新潟県野生生物保護実績発表大会 §

県内に 38 校ある愛鳥モデル校は、野鳥を中心とした野生生物の保護活動を行っており、その活動実績を毎年県に報告いただいております。当センターで 6 月 26 日に書類審査をさせていただき、特に優れた活動を行っている学校を選出し、県大会を 8 月 18 日に新潟県自治会館本館で開催しました。大会では、各学校で行われている探鳥会などの愛鳥活動や、地域の方々と一緒になって行っている自然保護活動についての発表がありました。どの学校も熱心に活動している様子がよく伝わる大変良い発表会でした。また、ハキハキとした口調での発表はとても好感が持てました。

審査結果は以下のとおりです。

金賞	上越市立春日小学校
銀賞	阿賀野市立水原小学校 糸魚川市立下早川小学校

※審査会において、今年度は銀賞を 2 校とすることとしました。

金賞を受賞した上越市立春日小学校は、探鳥会などの愛鳥活動の枠に留まらず、たくさんの鳥や昆虫が住む春日山にしたいという願いから地域の人と一緒に枯れた松の葉を集めたり、土を袋に入れて山頂まで運び山頂の松林や遊歩道の環境整備に役立てる活動など、地域の自然に視線を向けた活動を行っています。なお、金賞受賞校は公益財団法人日本鳥類保護連盟主催による全国大会へ推薦しました。今年度も上位入賞を期待しております。

また、今年度よりこれまで休憩時間としていた審査時間を使って「研修会」を行いました。昨年度金賞受賞校の南魚沼市立第二上田小学校村山稔校長先生より「環境教育を実践する先生に向けて」と題して講演を行っていただきました。児童の成長、意欲、関心を高めるにはどのような活動を行ったら良いか学習しました。

写真左：金賞受賞！上越市立春日小学校発表の様子
写真右上：表彰式　写真右下：研修会での講演

§ 愛鳥教室　野鳥の羽でしおりを作ろう §

身近な野鳥にもっと親しんでもらえるよう、また紫雲寺記念公園 25 周年記念イベントの一つとして、今年度から「愛鳥教室　野鳥の羽でしおりを作ろう」を 5 月 3 日～6 日（開催時間：午後 2 時～午後 3 時）に開催しました。4 日間合計 160 名に参加していただきました。

野鳥は色々な形、色の羽を持っています。愛鳥教室用には、普段目にする機会の少ない鳥と身近な鳥の羽を用意しました。種類はアオゲラ、アオバト、アカショウビン、カワセミ、カワラヒワ、キジ、コゲラ、サシバ、シジュウカラ、シロハラ、スズメ、チョウゲンボウ、ツバメ、トラツグミ、トラフズク、ヒヨドリ、ムクドリ、ヤマシギの計 18 種でした。それぞれキレイな羽で、みなさん選ぶのに迷っていたようです。

参加者からは「色々な鳥の羽の実物が見ることができて良かった」、「羽のみを見ると意外に印象が違うものだと感じた」、「羽の色や模様が近くで見られてきれいで感動しました。楽しかったです」、「鳥の羽に触れて子供たちが喜んでいました」などの声をいただきました。

今後も野鳥や自然に興味を持ってもらえるようなイベントを計画していきますので、皆さまの御参加をお待ちしています。

§ 工作教室 §

野鳥や自然に興味を持ってもらえるよう「工作教室」を 7 月 26 日（日）に開催しました。参加者は 23 名でした。こちらも紫雲寺記念公園 25 周年記念イベントです。

この教室では、「消しゴムはんこ作り」と「野鳥の羽を使ったしおり作り」を行いました。

最初は「消しゴムはんこ作り」から行いました。

作業は次のとおり進めていきました。

最初に自分が作ってみたい野鳥の図柄を選び、トレーシングペーパーに写しとります。

次に、写しとった絵に消しゴムを押しつけます。

消しゴムに写った絵をカッターで彫っていきます。

ほとんどの参加者は「消しゴムはんこを作るのは始めて！」とのことでしたが、細いラインをきれいに出そうと、丁寧に細かい作業を繰り返し行いながら、世界に 1 つのオリジナルの「はんこ」を完成させました。

休憩を挟んで、「野鳥の羽を使ったしおり作り」を行いました。ここでは、事前に用意された色や形が違う野鳥の羽を参加者が各自で選んで、ラミネートフィルムに好みのデザインで挟み込みました。そして、スタッフがラミネーターに入れて、「しおり」を完成させました。

参加者からは「子供たちが好きで愛鳥センターのイベントによくきています。今回のイベントもとても楽しかったので、また同じようなイベントがあったら参加したいです」等の意見をいただきました。

愛鳥センターの行事はほとんどが「参加費無料」ですので、お気軽にご参加ください。

写真左：参加者が作成した消しゴムはんこ作品集
写真右：野鳥の羽をつかったしおり作りの様子

§ 新潟県野鳥保護の集い §

新潟県野鳥愛護会との共催行事である「平成 27 年度新潟県野鳥保護の集い」を 6 月 13 日～14 日に胎内市胎内アウレッツ館及び奥胎内を会場に開催しました。（参加者数：36 名）

○コノハズクを聞く会 13 日（土）19:00～21:00（晴れ）

・3 班に分かれて、胎内川ダムを出発しました。キョキョキョキョ・・・というヨタカの声を聞きながら、上流方面へ歩いて行くと、遠くからお目当てのコノハズクが鳴く声が聞こえてきました。でもまだ耳を澄まさないと聞こえないぐらいです。あたりが暗くなるにつれヨタカの声がよく聞こえるようになり、足元をかすめて飛んでいく姿も見ることができました。その後、ブッ、キョッ、コーとはっきりコノハズクの鳴き声を聞くことができましたが、数は少なめでした。

○早朝探鳥会　14 日（日）4:15～8:40（晴れ）

・宿泊施設「アウレッツ館」の前で幸先の良いアカショウビンの鳴き声を聞いたあと、バスで奥胎内ヒュッテに向かいました。3 班に分かれ、上流の奥胎内橋付近（浅野橋）まで行き、折り返したあとは、胎内第一ダム付近（高倉橋）まで歩きました。キビタキがよく鳴き、キツツキ類のドラミングが響き渡る中を進んでいくと、枯れ木に止まるオオルリやツツドリ、トビを追いかけるカケス、ゴジュウカラなどが観察できました。途中カモシカも登場してくれました。胎内第一ダム周辺では元気よくさえずるノジコや、モリアオガエル、クロサンショウウオの卵なども見ることができました。

観察種：オシドリ　ホトトギス　ツツドリ　カッコウ　ヨタカ　トビ　サシバ　コノハズク　アカショウビン　コゲラ　オオアカゲラ　アオゲラ　サンショウクイ　カケス　ハシボソガラス　ハシブトガラス　コガラ　ヤマガラ　ヒガラ　シジュウカラ　ヒヨドリ　ウグイス　ヤブサメ　エナガ　センダイムシクイ　メジロ　ゴジュウカラ　カワガラス　キビタキ　オオルリ　ニュウナイスズメ　キセキレイ　イカル　ホオジロ　ノジコ

13 日～14 日観察会　合計 35 種

§ 愛鳥集会（藤塚浜小学校） §

5 月 10 日から始まる愛鳥週間にあわせて、5 月 29 日に愛鳥モデル校である新発田市立藤塚浜小学校の 3・4 年生を対象に「愛鳥集会」を開催しました。

野鳥観察の説明を聞いた後、3 班に分かれてセンター周辺にある畑、池、草原、探鳥路を指導員とともに観察しました。樹木の枝葉が勢いよく茂っていて、なかなか野鳥の姿を目で確認できませんでしたが、19 種の野鳥を確認することができました。

指導員をしてくださった齋藤敏郎氏は優しい口調で、野鳥の鳴き声や習性について丁寧に説明してくださいました。今後もよろしくお願いします。

出発の様子

観察会の様子

§4～7 月の探鳥会・観察会§

① 4/26（日）春の渡りを見る会 6:30～9:00（晴れ）
場所：大峰山　参加者:44 名　　観察種：34 種

集合場所の駐車場付近ではサシバが登場してくれました。林道を進むと、「ピィーリーリー」と鳴き声が。オオルリです。だんだん近寄ってきてくれ、みんなで青い美しい姿をしっかり見ることができました。

② 5/10（日）愛鳥週間探鳥会 6:30～8:30（曇り）
場所：大峰山　参加者:26 名　　観察種：25 種

林道を進むとクロツグミの響きの良い鳴き声が良く聞こえてきました。林道を折り返し、下り始めると、オオルリが近くの枝でさえずり始め、よく見ることができました。

③ 6/7（日）三光鳥を聞く会 6:00～8:20（晴れ）
場所：剣龍峡　参加者:23 名　　観察種：22 種

クロツグミとオオルリの鳴き声が美しいハーモニーで聞こえてきました。キビタキは姿を確認することができました。お目当てのサンコウチョウは残念ながら姿を見せてはくれず、鳴き声だけ届けてくれました。

② 5/6（水）春の初心者探鳥会 9:10～10:40（晴れ）
場所：紫雲寺記念公園 参加者:41 名 観察種：18 種

畑でヒヨドリが群れで飛んでいく姿やカワラヒワ、ホオジロの姿を確認ました。キジやウグイスは鳴き声で確認できました。林ではオオルリ 2 羽が樹木の茂みを移動する姿を確認しました。

←春の初心者探鳥会の様子

→愛鳥週間探鳥会で見られたオオルリ

探鳥会の確認鳥種

		①	②	③	④
1	ヤマドリ	●			
2	キジ	●	●		
3	コガモ	●			
4	キジバト	●	●	●	●
5	アオサギ	●		●	
6	ダイサギ	●			
7	ツツドリ			●	●
8	ミサゴ	●			
9	トビ			●	
10	サシバ	●		●	
11	カワセミ	●			
12	コゲラ		●		●
13	サンショクイ	●		●	
14	サンコウチョウ				●
15	モズ	●			
16	カケス	●		●	●
17	ハシボソガラス	●	●	●	
18	ハシブトガラス	●	●	●	●
19	コガラ			●	
20	ヤマガラ	●		●	●
21	ヒガラ	●			●
22	シジュウカラ	●	●	●	●

		①	②	③	④
23	ツバメ	●	●	●	●
24	イワツバメ				●
25	ヒヨドリ	●	●	●	●
26	ウグイス	●	●	●	●
27	ヤブサメ	●		●	●
28	エゾムシクイ	●	●		
29	センダイムシクイ		●		●
30	メジロ	●	●		●
31	ミソサザイ	●			
32	ムクドリ	●			
33	クロツグミ	●		●	●
34	コルリ			●	
35	キビタキ	●		●	●
36	オオルリ	●	●	●	●
37	スズメ	●	●	●	
38	キセキレイ	●		●	●
39	ハクセキレイ	●	●		
40	カワラヒワ	●	●	●	
41	イカル	●		●	●
42	ホオジロ	●	●	●	●
43	アオジ		●		
	計	34	18	25	22

§ 傷病鳥獣の収容状況 §

平成 27 年 4 月 1 日～7 月 31 日までの収容数は、鳥類 43 種 225 羽、獣類 3 種 3 頭で、昨年度の同時期（鳥類 196 羽、獣類 3 頭）と比べ鳥類は増加した。

平成27年度　4月～7月の傷病鳥獣収容結果

収容NO.	種類	3月末収容数	収容数	放鳥獣	返還譲渡	死亡	7月末収容数	収容NO.	種類	3月末収容数	収容数	放鳥獣	返還譲渡	死亡	7月末収容数
（鳥類）								23	チョウゲンボウ		9	8		1	0
1	キジ		3			3	0	24	ハヤブサ		1			1	0
2	コハクチョウ	1	1			2	0	25	モズ		3				3
3	オオハクチョウ	2	1			1	2	26	オナガ		3	1		2	0
	マガモ	2					2	27	ハシボソガラス	1	4	1		3	1
4	カルガモ		10	3		6	1	28	シジュウカラ		1			1	0
5	キジバト		3	1		2	0	29	ツバメ		30	6		22	2
6	アオバト		2			2	0	30	イワツバメ		1	1			0
7	ゴイサギ		1			1	0	31	ヒヨドリ		5	1		4	0
8	アマサギ		2			1	1	32	ウグイス		2			2	0
9	アオサギ	1	13	8		5	1	33	センダイムシクイ		3	2		1	0
10	ダイサギ	1	2	1		1	1	34	メジロ		5	2		3	0
11	ムナグロ		1			1	0	35	ムクドリ		15	2		13	0
12	ウミネコ		4			4	0	36	トラツグミ		1			1	0
	セグロカモメ	1					1	37	ルリビタキ		2			2	0
	オオセグロカモメ	1					1	38	キビタキ		1			1	0
13	ミサゴ		1				1	39	スズメ		29	1		28	0
14	トビ	3	6	1		4	4	40	ハクセキレイ		13	6		7	0
15	ハイタカ		1			1	0	41	カワラヒワ		11	3		7	1
16	オオタカ		1			1	0	42	ドバト		4	2			2
	ノスリ	1					1	43	不明		5			5	0
	クマタカ	1					1	小計		15	225	57	0	157	26
17	オオコノハズク		2	2			0	（獣類）							
18	フクロウ		8	2		6	0	1	アブラコウモリ		1			1	0
19	アオバズク		4	1		3	0	2	テン		1			1	0
20	トラフズク		3	2		1	0	3	タヌキ		1			1	0
21	アカショウビン		2			2	0	小計		0	3	0	0	3	0
22	カワセミ		6			6	0	合計		15	228	57	0	160	26

【愛鳥センターからのお願い】

釣り糸や釣り針は持ち帰りましょう

愛鳥センターに収容される野鳥たち（特にカモメ類）の中には、釣り糸（テグス）や釣り針による被害を受けたものが多く見られます。

池や海岸に捨てられた釣り糸にからまると、身動きが取れなくなったり、血が通わなくなって足が取れてしまったりします（釣り糸は丈夫なためなかなか切れず、しかも腐りません）。釣り針がついたまま捨てられた魚やルアーなどをエサと間違えて飲み込むものもいます。

針がのどの奥深くに食い込むと、エサが食べられず弱って死んでしまいます。

予防はかんたん。**「釣り糸や釣り針を捨てない」ことです。**捨てられた釣り糸や釣り針はゴミとなるだけでなく、野鳥の命も奪っているのだということを多くの方に知っていただき、基本的なマナーを守るということを心掛けていただければと思います。

トピック

愛鳥センターには、年間 500～600 羽ほどの野鳥が保護収容されます。収容原因として多いのは「衝突・転落」や「衰弱」などですが、次いで多いのは何でしょう？それは、ヒナたちの「巣から落下・誤認保護」で、割合としては 15%前後を占めています（基本的に愛鳥センターでは野鳥のヒナの収容を見送っていますが、様々な事情により収容する場合もあります）。

身近なスズメやツバメのヒナたちはもちろんのことですが、意外に多く収容されるのがフクロウやトラフズクのヒナたちです。

保護された
フクロウの巣立ちヒナ

ケガをしているものもありますが、ほとんどは巣立ち後の健康なヒナばかり。どうやら、ふわふわした綿毛の外観にダマされ（？）、巣から落ちて迷子になっていると勘違いされ、保護されてしまうようです。

樹に上るフクロウの
巣立ちヒナ
（自然の林にて）

実はフクロウのなかまは、まだ完全に飛べない状態で巣立ちをします。そして周辺の樹上で親鳥からエサをもらいながら成長していきます。

飛べなくても大丈夫。頑丈な足の爪とくちばしを使って、樹の上り下りもラクラク行ってしまいます。しかも、ほとんどの場合、近くでは親鳥が見守っていて、天敵から守ってくれています。

樹から樹へ移動するときは地面に下りることもありますが、このような時、人間に見つかってしまうのでしょう。知らずとはいえ、連れてきてしまうことは「誤認保護」となり、ヒナが自然界で親鳥から教育を受ける大切な期間を奪ってしまうことになります。

今年の春～夏も、フクロウのヒナが複数収容されました。私たち人間がフクロウの天敵とならないように、誤認保護についてご理解とご協力をお願いします。

§ 傷病鳥獣をお持ち込みの方へ §

日頃より、傷病鳥獣の保護にご協力いただきまして、ありがとうございます。

県、愛鳥センター紫雲寺さえずりの里では、「農林水産物保護」、「自然環境・生態系保護」の観点から下記の傷病鳥獣の保護収容を見送ることがあります。

原則として自然に任せますので、ご理解、ご協力をお願いします。

《愛鳥センターでの保護収容を見送る鳥獣》

1．施設の収容能力を越える動物（大・中型生物、猛獣）
（例）ツキノワグマ、イノシシ、ニホンザル、カモシカ　他

2．野鳥のヒナ
親鳥が近くで見守っている場合もあり、人間による「保護」は、親鳥からの誘拐に当たる恐れがあります。

3．農林水産物被害を及ぼし、駆除の対象となる鳥獣
（各市町村が定める鳥獣被害防止計画記載の鳥獣）
（例）スズメ、カラス、ドバト（カワラバト）、キジバト、ムクドリ、カワウ、タヌキ、ネズミ類、モグラ類　他

4．愛玩動物（ペット）、家禽、家畜

5．社会的・生態学的に問題となっている動物（外来生物）
（例）ハクビシン、アライグマ　他

「啓発用パンフレット」

●お問い合わせ先

新潟県県民生活･環境部環境企画課
０２５－２８０－５１５２
愛鳥センター紫雲寺さえずりの里
０２５４－４１－４５００
または、お近くの地域振興局健康福祉(環境)部

§ 巣箱作り教室 §

夏休みの恒例事業「巣箱作り教室」を 8 月 9 日（日）に開催しました。（参加者：7 組 14 名）

講師の白井康夫先生に巣箱と野鳥について講義をしていただきました。「ここ 10 年でスズメの数が半減している原因として考えられるのは、枯れ葉剤の影響で雑草に実がつかないことによるエサ不足であること。また、住宅等の建物が隙間のない作りとなり、巣を作る場所が限られている。」などの話をとおして、巣の代わりとして「巣箱」を作って繁殖の手助けをしてあげることで自然環境の保護につながることを教えていただきました。

制作を終えた後、巣箱は「いつ頃」、「どんな場所に」かけたらいいかについて学習しました。最後に実際に巣箱の取付け方の実演を見学して教室を終了しました。

制作の様子

巣箱かけの様子

4～7 月の来館者数

月	4 月	5 月	6 月	7 月	計	累計
来館者数	1, 229	3, 910	981	593	6, 713	583, 161

館内設置のトキ募金箱の報告

平成 27 年 5 月～平成 27 年 8 月　3, 056 円

累計２５４，２３８円

みなさまの暖かい善意に深く感謝いたします。

今後ともご協力をお願いいたします。

新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里

開館時間：午前 9 時～午後 4 時

休 館 日：毎週月曜日（祝日の場合は翌平日）

〒957-0231 新発田市藤塚浜海老池

Tel 0254-41-4500／Fax 0254-41-4501

HP：http://www.pref.niigata.lg.jp/aicho

E-mail：ngt035310@pref.niigata.lg.jp

1 月までの行事予定

探鳥会《参加費、申込み不要です。現地集合･解散となります。双眼鏡や図鑑の貸出しがあります。》

紫雲寺記念公園探鳥会（愛鳥センター集合）

10/11（日）　9:00～10:30

※この探鳥会は申し込みが必要です。

紫雲寺記念公園グループ　0254-41-3740

秋の渡りを見る会（ビュー福島潟駐車場集合）

10/25（日）　8:00～10:00

冬の初心者探鳥会（瓢湖白鳥会館駐車場集合）

11/ 8（日）　8:00～9:30

五十公野公園探鳥会（五十公野公園駐車場集合）

12/13（日）　8:00～10:00

海鳥を見る会（聖籠町海のにぎわい館駐車場集合）

1/31（日）　8:00～10:00

観察会、講座

足跡ウォッチング（愛鳥センター集合）

1/10（日）　9:00～11:00

バードカービング入門講座（愛鳥センター集合）

10/3（土）、10/10（土）、10/11（日）

（予備 10/12（月・祝））10:00～16:00

定員 20 名　《受付終了しました》（見学可）

フクロウ

アオバズク

トラフズク

講演会ほか

愛鳥講演会（県立生涯学習推進センター）

11/23（月･祝）13:00～15:30

内容：テーマは「フクロウ」です。

講師：日本野鳥の会新潟県副会長　岡田成弘氏

県立鳥屋野潟公園管理事務所（女池・鐘木）パークコーディネーター　浅野涼太氏

新潟県野鳥愛護会副会長　山田　清氏

参加費：無料　/　定員：150 名（先着）

申込締切：11 月 15 日（日）

平成 27 年度自然保護ポスター原画入選作品展　（階段ロビーで展示）

10/22（木）～11/11（水）

冬季特別展（2 階ロビーで展示）

10/31（土）～2/21（日）

野鳥写真展開催

県内で撮影した野鳥写真を募集します。

詳細な応募条件等は HP をご覧いただくか、または直接愛鳥センターへお問い合わせください。締切：平成 28 年 1 月 6 日（水）